

行動生理学研究室 Behavioral Neuroscience Laboratory

[Top](#) [Research](#) [News & Topics](#) [Staff & Members](#) [Activity](#) [Publication](#) [Contact Us](#) [Link](#)

News & Topics

2010.4.～

2010.4～

2009.4～

7/8 フランス学会報告

わたくし事ではありますが、久保田（博士後期課程2年）は学会参加のためフランスを訪れました。初めてのフランス一人旅でしたので、お話ししたいことは多々なのですが、今回は学会報告をさせていただきます。



6月24-25日の2日間に渡り、「First International Conference on Yawning」がパリ市内で開かれました。学会名から分かるように、世界で初めてのあくび学会です。「あくびの学会??」と不思議に思われる方も多いかもしれません。私たちにとって、あくびは誰もがするような日常的な行動です。注意を払うような行動とはなかなか思えないかもしれませんが、そのようなあくびも学問の対象になります。

「なぜあくびをするのか??」考えたことがありますか。大気中の酸素が少ないと、たくさん酸素を吸おうとあくびをするのでしょうか。授業中のあくびは、本当に退屈だから出るのでしょうか。極度の緊張時に出てしまうあくびは、どんな意味を持っているのでしょうか。私たちは、あくびの生物学的意義を行動生理学的手法および神経科学的手法を用いて明らかにしようと試みています。あくびは私たちヒトだけではなく、哺乳類・鳥類・爬虫類にも見られ、系統発生的にも古い行動と考えられ、そのような古来の行動が進化の過程を経ても残存することから、重要な意義をもつものと考えられています。



“Pitié-Salpêtrière Hospital”



あくびに魅了された医者や心理学者、科学者などおよそ50名が、パリ13区にある“Pitié-Salpêtrière Hospital”に集まりました。この病院の歴史は古く、当初は大きな火薬工場だったようです。その後、ルイ14世が病院としての基盤を作りながら、フランス革命を経て、精神医学に力を注いでいた“Philippe Pinel”により病院の立て直しが図られました。“Jean-Martin Charcot”はこの病院にて神経梅毒や癲癇など多くの病気の病態生理学を研究し、Charcotの講義を受けヨーロッパ各国から学生が訪れたようで、神経病理学の祖のひとりとも言われています。現在では、世界的に名高い教育研究病院であり、ヨーロッパ最大の病院のひとつでもあります。そして、conferenceを行った場所はまさに“Amphitéâtre JM. Charcot”でした。

主催者であるOlivier Walusinski (Medical Doctor, France) を筆頭に、ItalyやSpain、U.S.Aなど10数カ国の発表者により、2日間において計30ちかくのpresentationが行われました。初めての学会ということもあり、プレゼン内容の多くは、発表された各々の論文のreviewが中心でしたが、質疑応答は意外と活発に行われました。いくらacceptされた論文の内容であっても、やはり疑問に思うことは直接聞くのが一番のようです。見習う点です。そして、開催地がFranceということもあってか、発表者の半数弱がFrance語でプレゼンを行ったのです。Franceのお国柄、いくらか予想はしていましたが「まさかつ!!」でした。けれど、熱意は言語の違いを壁ともしないようです。質疑応答はFrenchとEnglishのジャングルでしたが、不思議と噛み合っていたように思います。今回の学会に参加し、1番の喜びは何だと思えますか。普段、机上の論文の著者でしかない研究者に、「会えた」ことです。直接、彼らの主張することを、彼らの声で聞くことができたこと、この事が何より充実した時間を与えました。そして、Olivierに...“Would you mind pose with me ?”



私は、現在取り組んでいる「あくびの生物学的意義」に関するテーマにとっても魅力を感じています。手を動かし、試行錯誤しながら結果を追い...そんな実験系が大好きです。自分における課題は多々だと思いますが、不得手な言語は熱意で補い、より多くの人に自分が取り組んでいることを伝え、また他人の研究を聞き、お互いに新しい発見を共有できるように努力していきたいと思います。

この2日間、胸に抱く興奮も多かったものの、緊張も計りしれませんでした。しかし、フランスのこんなお茶目な光景が癒してくれました（歴史的建造物のバルコニーから恐竜??）。また、機会がありましたらパリ観光などもお話しできればと思います。読みにくい箇所もあったかと思いますが、最後までありがとうございました。（久保田）



5/25 Happy Birthday, Prof. Kita!!

本日のゼミ終了後に、北先生の誕生日を研究室メンバーでお祝いしました！！

このお祝い会は、4年生の荒川さん・伊藤さんが中心に企画してくれました。